

THERMAE
ANCIENT
ROME, JAPAN,
AND THE JOY OF
BATHING

湯

テルマエ展

お風呂でつながる古代ローマと日本



はがきょうこ
芳賀京子
東京大学 大学院教授

日本のお風呂とすごく似ていてやっぱり違う 古代ローマの「テルマエ」の魅力とは？

2023年11月より、企画展「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」が開催される。そこで、本展の監修者として展示作品のピックアップなどを担当した東京大学大学院教授・芳賀京子先生に、古代ローマの「テルマエ（風呂）文化」についてお話をうかがった。



三浦宏《湯屋模型》
1980年代 個人蔵

今回の展示会のテーマである「テルマエ」とは、なんなのでしょうか？

「テルマエ」とは、古代ローマ帝国で発展した「大規模な公共浴場」のことです。漫画『テルマエ・ロマエ』で日本でも広く知れ渡りましたが、ギリシア語で「熱い」を意味する「テルモス」が語源とされます。古代ローマで最初につくられたテルマエは紀元前1世紀末にアクリッパ（※1）がつくったもので、これ以降に「テルマエII 公共浴場」を意味する言葉として定着したようです。

今回展示品の借用のため現地イタリアの研究者に「テルマエ展」の企画を説明したら、「随分マニアックな企画だね」と驚かれました。というのも、イタリアを含めて日本ほど風呂文化に馴染みがある国はないからです。実際テルマエの

遺跡では、他の国の観光客が素通りする中、日本人観光客だけが目を輝かせて観察している。つまり「テルマエ展」は、お風呂が大好きな日本人だからこそ開催できた、特殊な展示会なんです！

「テルマエが生まれる以前から風呂文化はあったのでしょうか？」

紀元前1500年頃のミノス（クレタ）文明の遺跡からバスタブが発掘されており、風呂文化はテルマエが生まれるずっと前からあったとされます。テルマエに大きな影響を与えたのは古代ギリシアの大浴場。運動競技場に併設されていて、私たちが運動した後にシャワーを浴びると同じ要領で、競技後に若い男性が一斉に水浴びをするための施設があったことが知られています。これは水

風呂でした。とはいえ、当時から温泉地もありましたし、老人や病人は温泉水に浸かっていたようです。

「テルマエはそれまでの風呂文化と何が違うのでしょうか？」

古代ローマのテルマエの特徴は、ひじょうに大規模な公共施設だったという点とでしょう。大きな浴場をつくるためには、大量の水と燃料、そして湯を沸かす奴隷が必要です。ローマは水道を完備



し、国力もあつたため各地から燃料奴隷を調達できました。ローマ帝国の滅亡後、テルマエ文化は衰退しますが、これは大規模な施設を維持できるだけの力を持った国が生まれなかったことが一因

です。よく、「裸の付き合いを忌避するキリスト教の拡大で、テルマエは廃れた」と説明されますが、実際はキリスト教拡大後も新たなテルマエがつくられており、ランニングコストがかからない温泉地では風呂文化が残されました。また、有名な「カラカラ浴場」(※2)

を始め、テルマエは皇帝の主導でつられ、ローマ市民は無料または格安で入浴できたのも特徴です。古代ローマといえば「パンとサーカス」という言葉聞いたことはありませんか。これはローマ皇帝が庶民に「パン（食事）」と「サーカス（娯楽）」を無償で提供し、帝国を治めたことを意味しますが、テルマエはまさにそうした娯楽の一つでしょう。事実、テルマエには、プールやマッサージ、サウナ、くつろげるスペースを併設するものもありました。現代日本のスパ銭湯にそっくりですね。

また、テルマエは社交場としての機能も持っていました。午前中働いた労働者が、ひとつぶる浴びに午後テルマエに集まるといったルーティーンがあつたとか。浴室内では当然裸の付き合いなので、身分を超えて談笑したり…なんてこともあつたかもしれません。一方で、上層階級の中には、身分関係なく同じ湯に浸かることに抵抗があつた人もいたようで、「テルマエは不潔だ」と語る文筆家の記録も残っています。

「テルマエ展」では多くの彫刻作品が展示されますが、テルマエと彫刻にはどんな関わりがあるのでしょうか？

テルマエにはさまざまな彫刻が飾られていましたが、それらの像はひとつひとつ理由があつて置かれていました。たとえば沐浴をするヴェーナスの像。ギリシア神話



《アポロとニンフへの奉納彫刻》2世紀
ナポリ国立考古学博物館蔵
Photo © Luciano and Marco Pedicini

のヴェーナスは、海から生まれた神で、水の精霊ニンフを連れ立っている。水と関連する神だからお風呂に設置したのでしょ。同じくテルマエによく見られるアポロやアスクレピオスは治療の神。お風呂が健康の秘訣であることを、アポロ像を通じて表現したのかもかもしれません。また、テルマエにはギリシアのギムナシウム（運動施設）の影響がみられます。そのためアスリートの像もよく飾られました。

このように、テルマエに設置された彫刻は、教養がある人が見たらなぜその像が飾られたのかという「読み解き」を楽しめるものであり、古代ローマ人の美術を楽しむ

むことへの積極性が感じ取れます。もっとも庶民からしたら、「お風呂だから裸の人の像がいっぱいあるんだなあ」ぐらいの意識だったかもしれませんが（笑）。

「最後に、先生のイチオシの展示を教えてください！」

今回「カラカラ浴場」をつくった皇帝カラカラの胸像を展示します。彫刻として美しい作品ですが、この像には面白い逸話があるんです。というのもカラカラ浴場の発掘時「カラカラの全身像が出たけど、壊れていたため胸像に作り直した」という記録が残っており、それがこの像ではないかといわれているんです。カラカラは漫画『テルマエ・ロマエ』のヒットの前から日本にローマの風呂文化を広めた人物ですので、彼の像を展示できたのは感慨深いですね。

「テルマエ展」は他にも、テルマエの水盤（洗い場）の再現展示を始め、テルマエの魅力がより伝わるよう工夫をこらしました。また、ローマだけではなく、浮世絵など日本の風呂文化がわかる作品も展示しています。

大分は温泉が身近にあり、温泉文化に普段から触れることが多いかと思えます。お風呂への愛をもった大分の皆様に、日本の風呂文化とテルマエ文化の「すごく似ているポイント」や「違うポイント」を探してもらい、楽しんでいただけたら嬉しいですね。



《カラカラ帝胸像》
212～217年
ナポリ国立考古学博物館蔵
Photo © Luciano and Marco Pedicini

※1 アグリッパ：初代ローマ皇帝アウグストゥスの重臣。
※2 カラカラ浴場：皇帝カラカラ（188～217年）がつくった公共浴場。敷地面積は約11万平方メートルに及び、周囲には運動場や庭園、図書館などが併設された。